

大村湾に関する文献および資料

飯 塚 昭 二

A list of Documents on the Omura Bay

Shoji IZUKA

前 言

大村湾に関する文献目録作製の要請は強く、筆者もかねがね必要性を感通して来たが、今回ようやくその機会を持つに至った。ここに集録したものは1945年以降1974年3月現在既刊の、1)大学・研究所が発行する紀要・報告書等、2)官公庁が発行する調査報告書・資料等、3)学術に関する会議の議事録等、4)機関に属する個人が所属機関外の刊行物例えば学会誌等に投稿した論文等、5)その他、大村湾に関係ある文献および資料164篇である。具体的には、長崎大学水産学部刊行の同研究報告；長崎水産試験場刊行の大村湾調査および同水試資料；長崎海洋気象台刊行の“海象と気象”および海洋観測報告；神戸海洋気象台刊行の海洋時報；西海区水産研究所刊行の同研究報告；国立真珠研究所刊行の同研究所報告および同大村支所関係資料；長崎県衛生公害研究所刊行の同研究所報告についてはすべて集録を、長崎県庁関係については企画部および環境保全局公害規制課の1968年以降の資料を、また、日本水産資源保護協会・長崎県漁業連合組合・海上保安庁関係等については部分的集録を行なった。したがって、個人関係分も含めて大村湾に関するすべての文献および資料を網らしたとは言い難く、貴重な文献および資料で本調査の対象とならず記載漏れになったものもあると思う。見落とし分は今後の調査で補遺したいと考えるので御指摘が載れば幸いである。

目録は、著者または刊行機関名；年号；論文または資料名；雑誌名（巻・号・頁）の順に記載し、末尾に〔 〕としてその内容の説明を簡単な語句で略記した。

本目録作製にあたって前記諸機関から与えられた御厚意に感謝すると共に、長崎大学水産学部教授入江春彦・長崎水産試験場長塩川 司・長崎海洋気象台海洋課長進士福太郎・同海洋課松崎正夫・西海区水産研究所海洋第一研究室長井上尚文・国立真珠研究所大村支所船越将二・長崎県衛生公害研究所水質科長伴与一郎・長崎県企画部一ノ瀬義昭・同環境保全局公害規制課平山文俊の諸氏には個人的に特にお世話になった。ここに厚く御礼を申し上げる。また、直接文献調査に当たったのは本学大学院生杉山宏・網田喜久夫の両君で、二人の協力なしには本目録刊行もあり得なかったことを記して、深甚なる謝意を表する。

大村湾文献および資料目録

(長崎大学水産学部関係)

1. 八坂 茂・樋口哲明・川崎克俊 (1953)：長崎産鯷の研究 (第4報) 大村湾内に産する鯷に就て。長大水研報, 1, 62—67. [イワン, 生化学]
2. 入江春彦・飯塚昭二 (1954)：大村湾の海洋学的並びに浮游生物学的性状に関する研究 (予報) 上層の水塊区分に就いて。長大水研報, 2, 1—7. [水温・塩分]
3. 八坂 茂・田端義明 (1954)：長崎県下に産する Plankton の生化学的研究 (第2報) 佐世保港内崎辺海岸で採集した Diatom 並に大村湾音琴海岸で採集した Sagitta に就いて。長大水研報, 2, 57—58.

〔プランクトン，生化学〕

4. 八坂 茂・宮原昭二郎・武藤 功 (1954)：長崎産鯷の研究—V 大村湾内に産する鯷に就いて (2)．長大水研報，2，43—50．〔イワシ，生化学〕
5. 入江春彦・飯塚昭二 (1955)：大村湾の海洋学的並びに浮游生物学的性状に関する研究 (予報II) 湾口附近水域に於ける植物性プランクトン量と気象要因との関係に就いて．長大水研報，3，1—3．〔プランクトン，気象〕
6. 入江春彦・武田恵二 (1956)：大村湾の海洋学的並びに浮游生物学的性状に関する研究—III Plankton Community から見た大村湾水の性状に就いて．長大水研報，4，7—10．〔プランクトン〕
7. 飯塚昭二・入江春彦 (1957)：大村湾の海洋学的並びに浮游生物学的性状に関する研究—IV 水塊とプランクトン相の問題．長大水研報，5，1—7．〔プランクトン〕
8. 山田鉄雄 (1957)：大村湾のハゼ類．長大水研報，5，104—113．〔魚類〕
9. 山田鉄雄 (1957)：大村湾のテンジクダイ．長大水研報，5，80—90．〔魚類〕
10. 山田鉄雄 (1957)：大村湾の特徴的な動物プランクトン．長大水研報，5，91—103．〔プランクトン (動物)〕
11. IRIE, Haruhiko (1958)：Pelagic Amphipods in Omura Bay. *Bull. Fac. Fish. Nagasaki Univ.*, 6, 106—108．〔プランクトン (動物)〕
12. IRIE, Haruhiko (1958)：Vertical Occurrences of Pelagic Amphipods in Neritic and Inshore Waters in the Neighborhood of Sasebo. *Bull. Fac. Fish. Nagasaki Univ.*, 7, 87—92．〔プランクトン (動物)〕
13. 豊島友光・谷口忠敬・入江春彦・銭谷武平 (1958)：アコヤガイ (*Pinctada martensi* (DUNKER)) の成長度と環境条件について．長大水研報，6，97—105．〔アコヤガイ，環境〕
14. 山田鉄雄 (1958)：大村湾内小アジの魚群組成．長大水研報，6，60—67．〔魚類〕
15. 山田鉄雄 (1958)：大村湾内のカタクチイワシの産卵生態．長大水研報，6，68—73．〔魚類〕
16. 山田鉄雄 (1958)：大村湾における動物性プランクトンの日週活動について．長大水研報，6，68—72．〔プランクトン (動物)〕
17. 八木原晴之・立石新吉・藤岡 城 (1959)：アコヤガイの生殖巣の組織学的観察—環境条件の異なる海域における生殖巣熟度の差異について．長大水研報，8，259—269．〔アコヤガイ〕
18. 藤岡 城・立石新吉 (1961 a)：アコヤガイの真珠袋形成の組織学的観察—I 特に生殖巣熟度と真珠袋形成との関係について．長大水研報，10，87—99．〔アコヤガイ〕
19. 藤岡 城・立石新吉 (1961 b)：アコヤガイの真珠袋形式の組織学的観察—II 特に外套膜切片 (ピース) の内側および外側表皮細胞に人為的傷害を与えた場合の真珠袋形成について．長大水研報，11，141—151．〔アコヤガイ〕
20. 谷口忠敬・銭谷武平 (1963)：真珠母貝の手術に抗生物質の使用と採取珠の品質に対する影響について．長大水研報，14，30—34．〔アコヤガイ〕
21. TANIGUTI, Tadataka (1964)：Consumption of Dissolved Oxygen by Bacterial Decomposition of Various Organic Compounds Added into Inshore Sea Water. *Bull. Fac. Fish. Nagasaki Univ.*, 17, 104—109．〔酸素消費，細菌〕
22. 谷口忠敬 (1965)：浅海域の微生物学的研究—I 泥質からアンモニア・磷酸塩および有機酸の浸出について．長大水研報，19，91—99．〔細菌，底質溶出〕
23. 宮内徹夫・入江春彦 (1965)：アコヤガイと環境水の流速との関係．長大水研報，19，56—64．〔アコヤガイ〕
24. 森井秀昭・金津良一・福原忠信 (1965)：真珠漁場の底質に関する研究—I 早岐瀬戸周辺の佐世保および大村湾における表層底質の地域的差異．長大水研報，19，74—80．〔底質〕
25. 森井秀昭・金津良一・福原忠信 (1965)：真珠漁場の底質に関する研究—II 大村湾における底質の垂直的变化ならびに季節的变化．長大水研報，19，81—84．〔底質〕

26. 塩川 司・立石 賢・飯塚昭二・入江春彦 (1966) : 1962年大村湾に発生した赤潮現象と水産被害について. 長大水研報, 21, 45—58. [赤潮, 被害]
27. 入江春彦・飯塚昭二 (1966) : 「早岐瀬戸」締め切りが周辺真珠漁場に与える影響に関する研究—I プラクトン相の現況と予想される変化. 長大水研報, 20, 14—21. [プラクトン, 早岐瀬戸]
28. 入江春彦・浜島謙太郎 (1966) : 1965年夏期大村湾赤潮時の海況とその被害—I 1965年夏期大村湾赤潮の概説. 長大水研報, 21, 59—66. [赤潮]
29. 飯塚昭二・入江春彦 (1966) : 1965年夏期大村湾赤潮時の海況とその被害—II 後期赤潮とその生物学的特徴について. 長大水研報, 21, 67—102. [赤潮]
30. 森 勇・入江春彦 (1966) : 1965年夏期大村湾赤潮時の海況とその被害—III 赤潮発生時の大村湾沖合域の海況. 長大水研報, 21, 103—104. [赤潮・海況]
31. 塩川 司・入江春彦 (1966) : 1965年夏期大村湾赤潮時の海況とその被害—IV 赤潮による水産被害について. 長大水研報, 21, 115—130. [赤潮・被害]
32. 宮内徹夫・入江春彦 (1966) : アコヤガイと環境水の流速との関係 (補遺) 環境水の流速がアコヤガイの貝殻運動と貝殻形成力におよぼす影響. 長大水研報, 20, 22—28. [アコヤガイ]
33. 宮内徹夫・入江春彦 (1966) : 低圧酸素海水中におけるアコヤガイの酸素消費量と貝殻運動. 長大水研報, 21, 139—144. [アコヤガイ]
34. 谷口忠敬・藤田雄二・銭谷武平 (1966) : 浅海域の微生物学的研究—II 多糖類の分解能から見た有機栄養細菌群構成の季節的变化. 長大水研報, 21, 243—250. [細菌]
35. 谷口忠敬・銭谷武平 (1966) : アコヤガイの挿核手術後にみられる細菌性障害について—特に細菌接種試験と分離細菌の性状について. 長大水研報, 21, 257—263. [アコヤガイ・細菌]
36. 飯塚昭二・入江春彦 (1967) : 「早岐瀬戸」締め切りが周辺真珠漁場に与える影響に関する研究—II 漁場の流動状況と夏期の酸素量低下. 長大水研報, 22, 1—14. [早岐瀬戸・流動]
37. 入江春彦・飯塚昭二 (1967) : 「早岐瀬戸」締め切りが周辺真珠漁場に与える影響に関する研究—III 総括と要約. 長大水研報, 22, 15—20. [早岐瀬戸]
38. 藤田雄二・谷口忠敬・銭谷武平 (1967) : 浅海域の微生物学的研究—III 底質中の有機炭酸・溶存酸素消費量・有機酸および硫化物の消長と有機栄養細菌との関係. 長大水研報, 23, 187—196. [細菌, 底質, 硫化物]
39. 藤田雄二・谷口忠敬・飯塚昭二・銭谷武平 (1967) : 浅海域の微生物学的研究—IV 底質中の硫化物の挙動と底質無酸化化との関係. 長大水研報, 24, 79—88. [細菌, 底質, 無酸化化]
40. 飯塚昭二・入江春彦 (1968) : 1966年長崎県下に発生した赤潮現象と赤潮プラクトン *Olisthodiscus* の生態観察. 長大水研報, 26, 25—36. [赤潮]
41. 飯塚昭二・入江春彦 (1969) : 赤潮無発生年における赤潮プラクトンの動勢 1966年大村湾の場合. 長大水研報, 27, 19—38. [プラクトン]
42. 藤田雄二・飯塚昭二・銭谷武平 (1969) : 浅海域の微生物学的研究—V 夏季内湾底層の貧・無酸素域における硫酸還元細菌ならびに硫黄細菌群の分布について. 長大水研報, 28, 153—160. [硫酸還元細菌, 硫黄細菌]
43. TAKEMURA, Akira (1969) : Studies on the Underwater Sound—II On the Diurnal Variation of the TEMPURA NOISE in the Coastal Waters of Nagasaki Prefecture. *Bull. Fac. Fish. Nagasaki Univ.*, 28, 31—41. [生物音]
44. FUJITA, Yuji & Buhei, ZENITANI (1971) : Microbiological Studies on Shallow Marine Areas—VI Thiosulfate-oxidizing bacteria isolated from shallow bay. *Bull. Fac. Fish. Nagasaki Univ.*, 31, 77—83. [細菌]
45. 山田鉄雄 (1971) : *Calanus pacificus* var *Japonicus* BRODSKY の分類学的所見とその九州西海における分布生態. 長大水研報, 32, 51—67. [プラクトン (動物)]
46. 長崎大学水産学部 (1971) : 大村湾赤潮発生条件とその予知・予察に関する研究. 長崎県委託研究, 昭

- 和45年度調査報告。〔赤潮予知〕
47. 平山和次・飯塚昭二・米司 隆 (1972) : 1971年夏季の大村湾海水による赤潮プランクトン *Gymnodinium* '65年型種の培養. 長大水研報, 33, 11—20. 〔赤潮プランクトン培養〕
 48. 右田清治・四井敏雄 (1972) : モズク増殖に関する基礎的研究—I モズクの生活環. 長大水研報, 34, 51—62. 〔海藻 (モズク)〕
 49. 長崎大学水産学部 (1972) : 大村湾赤潮発生条件とその予知・予察に関する研究. 長崎県委託研究, 昭和46年度調査報告. 〔赤潮予知〕
 50. 長崎大学水産学部 (1973) : 大村湾赤潮予知に関する研究. 長崎県委託研究, 昭和47年度調査報告. 〔赤潮予知〕
 51. 長崎大学水産学部 (1974) : 大村湾赤潮予知に関する研究. 長崎県委託研究, 昭和48年度調査報告ならびに総括. 〔赤潮予知〕
 52. 長崎大学水産学部 (1974) : 大村湾水質汚濁対策総合調査. 長崎県委託研究, 昭和48年度調査報告. 〔水質〕

(長崎県水産試験場関係)

53. 長崎県水産試験場 (1953) : 大村湾調査 (真珠養殖環境調査). No.15. 〔海況〕
54. 長崎県水産試験場 (1953) : 大村湾調査. No.16. 〔8月水温, オゴノリ, 組合別漁獲高〕
55. 長崎県水産試験場 (1953) : 大村湾調査. No.17. 〔水温, 比重〕
56. 長崎県水産試験場 (1953) : 大村湾調査. No.18. 〔水温, 比重, 伊ノ浦瀬戸魚探記録〕
57. 長崎県水産試験場 (1953) : 大村湾調査. No.19. 〔水温〕
58. 長崎県水産試験場 (1953) : 大村湾調査. No.20. 〔水温, 魚探 (郡川沖), 真珠養殖場調査〕
59. 長崎県水産試験場 (1954) : 大村湾調査. No.21. 〔水温, 塩素量〕
60. 長崎県水産試験場 (1954) : 大村湾調査. No.22. 〔水温〕
61. 長崎県水産試験場 (1954) : 養殖技術改良試験, 牡蛎の簡易垂下養殖に就いて. 〔カキ〕
62. 長崎県水産試験場 (1954) : 大村湾調査. No.23. 〔水温, 魚卵, 稚魚〕
63. 長崎県水産試験場 (1954) : 大村湾調査報告, 第1報 特に真珠養殖場附近の調査. 〔海況, 底質, マイワシ漁況, アコヤガイ斃死, 赤潮〕
64. 長崎県水産試験場 (1954) : 大村湾調査. No.24. 〔水温, 塩素量, DO, H₂S, 魚卵, 稚魚, プランクトン〕
65. 長崎県水産試験場 (1955) : 大村湾調査. No.25. 〔水温, 塩素量, DO, H₂S〕
66. 長崎県水産試験場 (1955) : 大村湾調査. No.26. 〔水温, 塩素量, DO, H₂S, 魚卵, 稚魚〕
67. 長崎県水産試験場 (1955) : 大村湾調査. No.27. 〔稚魚, 赤潮 (30年8月), カキ (東浦)〕
68. 長崎県水産試験場 (1955) : 大村湾における澱粉工場廃水による水質汚濁の調査. 水試資料, No.78. 〔水質汚濁〕
69. 長崎県水産試験場 (1956) : 大村湾調査 (総括概論). No.28. 〔海況, アコヤガイ, 重要水産資源, 赤潮〕
70. 長崎県水産試験場 (1957) : 大村湾調査. No.29. 〔水温, 比重, 採泥, 聞き取り調査〕
71. 長崎県水産試験場 (1958) : 大村湾調査. No.30.
72. 長崎県水産試験場 (1960) : 水質汚濁調査報告. 水試資料, No.173. 〔でん粉廃水, カキ養殖 (喜大漁協地先)〕
73. 長崎県水産試験場 (1961) : 大村湾調査. No.31. 〔海況, 魚礁〕
74. 長崎県水産試験場 (1961) : 沿岸重要漁業資源調査報告. 水試資料, No.192.
75. 長崎県水産試験場 (1961) : 澱粉廃水の浄化に関する試験 (大村市委託調査). 水試資料, No.195.
76. 長崎県水産試験場 (1962) : 大村市東浦調査 (大村市委託調査No.2). 水試資料, No.201. 〔水質〕
77. 長崎県水産試験場 (1962) : 大村湾調査. 1962年9月に発生した赤潮について. No.32. 〔赤潮〕
78. 長崎県水産試験場 (1962) : 沿岸水族幼稚魚再捕状況調査報告. 水試資料, No.212. 〔幼稚魚〕
79. 長崎県水産試験場 (1963) : 大村湾における赤貝の資源量調査報告. 水試資料, No.219. 〔赤貝〕

80. 長崎県水産試験場 (1963): 沿岸水族幼稚魚採捕状況調査報告. 水試資料, No.233. [幼稚魚]
81. 長崎県水産試験場 (1965): 長崎県有用貝類の調査研究—I, II. 水試資料, No.249. [赤貝, 放流, 潜水調査]
82. 長崎県水産試験場 (1965): 漁場環境調査報告書. 水試資料, No.255. [海況, 魚種別漁場, 回游]
83. 長崎県水産試験場 (1965): 海底地形・魚礁の分布と漁場. 水試資料, No.255. [海底地形, 魚礁]
84. 長崎県水産試験場 (1966): 大村湾調査 (赤潮調査). No.33. [海況, プランクトン]
85. 長崎県水産試験場 (1966): 大村地先海域における澱粉工場廃水による水質汚濁調査. 水試資料, No.277. [汚濁]
86. 長崎県水産試験場 (1966): 昭和39・40年度藻類増養殖試験報告. 水試資料, No.280. [ワカメ養殖]
87. 長崎県水産試験場 (1967): 長崎県有用貝類の調査研究—IV. 水試資料, No.281. [赤貝]
88. 長崎県水産試験場 (1967): 大村湾調査 (赤潮調査). No.34. [赤潮, 被害]
89. 長崎県水産試験場 (1967): 沿岸漁業構造改善対策事業効果認定特別調査報告. 水試資料, No.292. [大型魚礁]
90. 長崎県水産試験場 (1968): 沿岸漁業構造改善対策事業効果認定特別調査報告. 水試資料, No.302.
91. 長崎県水産試験場 (1968): 大村湾調査 (赤潮調査). No.35. [海況 (1968年夏期), アコヤガイ]
92. 長崎県水産試験場 (1968): 沖合真珠養殖研究報告. 水試資料, No.309.
93. 長崎県水産試験場 (1970): 底魚資源調査報告 (大村湾におけるマダイ幼魚の資源・漁場). 水試資料, No.324. [マダイ]
94. 長崎県水産試験場 (1970): 形上湾真珠養殖場環境調査報告. 水試資料, No.326. [漁場海況]
95. 長崎県水産試験場 (1970): 大村湾調査 (赤潮調査). No.36.
96. 長崎県水産試験場 (1971): 大村湾佐世保湾漁場環境調査報告. 水試資料, No.328. [赤潮, 斃死]
97. 長崎県水産試験場 (1971): 昭和45年度設置大型魚礁沈設状況調査報告 (魚探調査). 水試資料, No.331. [魚礁]
98. 長崎県水産試験場 (1972): 長崎県有用貝類の調査研究VI. 水試資料, No.344. [赤貝, 被害, 資源]

(長崎海洋気象台関係)

99. 坂田正明 (1947): (自) 小串郷 (至) 時津大村湾縦断カッター廻航記. 海象と気象, 1(4).
100. 長崎海洋気象台 (1947): 大村湾海洋観測報告 (昭和22年7月—8月). 海洋観測報告, 2, 18—33. [測流, 一般観測]
101. 長崎海洋気象台 (1948): 長崎県下沿岸水温比重及河川水温観測表 [I] (昭和23年1月). 海洋観測報告, 3, 54.
102. 長崎海洋気象台 (1948): 大村湾海洋観測報告 (昭和23年1月). 海洋観測報告, 4, 23—32. [水温, 化学成分]
103. 長崎海洋気象台 (1948): 長崎県下沿岸水温比重及河川水温観測表 [II] (昭和23年3月—5月). 海洋観測報告, 4, 48—50.
104. 長崎海洋気象台 (1948): 長崎県下沿岸水温比重及河川水温観測表 [III] (昭和23年7月—9月). 海洋観測報告, 5, 55—56. [海況, 河川]
105. FUKAI, R. and H. HAMADA (1948): A Chemical Study of "Omura-Wan." 海象と気象, 2(2), 22—27. [1月海況]
106. 辻田時美 (1948): 赤潮と海の生物季節. 海象と気象, 2(2), 13—16. [赤潮]
107. 加藤威夫 (1949): 大村湾の底質諸性状. 海象と気象, 3(2), 33—40. [底質]
108. 深井麟之助・大迫盛夫・浜田七郎 (1949): 大村湾沿岸河川の化学的研究 (1). 海象と気象, 3(3), 9—14. [河川水]
109. 長崎海洋気象台 (1949): 大村湾秋季海洋観測結果 (昭和23年11月). 海洋観測報告, 6, 1—22. [一般海況]

110. 長崎海洋気象台 (1949)：大村湾沿岸河川観測結果 (昭和23年11月). 海洋観測報告, 6, 89—90. [河川]
111. 長崎海洋気象台 (1949)：長崎県下沿岸水温比重及河川水温観測表〔IV〕(昭和23年10月—12月). 海洋観測報告, 6, 95. [海況, 河川]
112. 長崎海洋気象台 (1949)：長崎県下沿岸水温比重及河川水温観測表〔V〕(昭和24年1月—7月). 海洋観測報告, 7, 139—145. [海況, 河川]
113. 長崎海洋気象台 (1949)：長崎県下沿岸水温比重及河川水温観測表〔VI〕(昭和24年8月—10月). 海洋観測報告, 8, 151—153. [海況, 河川]
114. 佐藤猛郎 (1949)：伊ノ浦瀬戸の潮流について (第一報). 海象と気象, 3(4), 1—9. [伊ノ浦瀬戸潮流]
115. 辻田時美 (1949)：Silicoflagellata による大村湾の赤潮. 長崎海洋気象台報告, 2, 17—29. [赤潮]
116. 加藤威夫 (1950)：水の混合による化学成分変化と水系について. 海象と気象, 4(2—4), 78—82.
117. 長崎海洋気象台 (1950)：長崎県下沿岸水温比重及河川水温観測表〔VII〕(昭和24年11月—昭和25年3月). 海洋観測報告, 9, 168—172. [海況, 河川]
118. 長崎海洋気象台海洋課 (1951)：大村湾と有明海の関係水位の調査について. 海洋時報, 2(1), 9—12.
119. 長崎海洋気象台 (1951)：長崎県下沿岸水温比重及河川水温観測表. 海洋観測報告, 10, 36—51. [海況, 河川]
120. 加藤威夫, 他 (1952)：大村湾海洋観測結果報告. 海洋時報, 2(6—7), 1—72. [海況, 化学成分, SO_4^{2-} , 底質, プランクトン]
121. 瀬戸恒鋭 (1963)：大村空港の計器飛行気象状態と風. 研究時報, 15(1), 52—61. [気象]

(西海区水産研究所関係)

122. 辻田時美 (1956)：Plankton の異常繁殖とその随伴現象の研究. 西水研報, 10, 1—62. [赤潮]
123. 浜田七郎・浜田律子 (1966)：大村湾に於ける赤潮発生時の底土の性状. 西水研報, 34, 150—159. [底質]

(国立真珠研究所関係)

124. 片田清次・太田 繁・丹下 孚・山口一登 (1957)：大村湾内真珠養殖場の海洋調査. 国立真珠研究所報告, 2, 147—157. [7月水温, 塩素量, DO, 珪酸, リン酸]
125. 蓮尾真澄・阪口清次・山口一登・村上悦男 (1962)：長崎県下真珠養殖漁場において生産された真珠品質およびアコヤガイの成長度の比較に関する研究. 国立真珠研究所報告, 8, 920—947. [真珠品質]
126. 国立真珠研究所 (1962)：長崎県下真珠養殖漁場の特性区分とその生産性に関する研究. [真珠品質, 海況(濁度係数)]
127. 真珠研究所大村支所 (1971)：大村湾観測記録 (昭和46年). [水温, 比重]
128. 国立真珠研究所 (1972)：真珠研究所多徳島臨海実験場および大村支所の観測記録 (1955—1970). 国立真珠研究所資料, 2, 165—356. [水温, 比重]
129. 真珠研究所大村支所 (1972)：大村湾観測記録 (昭和47年). [水温, 比重]
130. 真珠研究所大村支所 (1973)：大村湾観測記録 (昭和48年). [水温, 比重]

(長崎県衛生研究所関係)

131. 長崎県衛生研究所 (1971)：メッキ工場等の廃水調査 (第3報). 長崎県衛生研究所報告, IX, 69—70. [水質]
132. 長崎県衛生研究所 (1971)：メッキ工場等の廃水調査 (第4報). 長崎県衛生研究所報告, X, 39. [水質]

133. 長崎県衛生研究所 (1971): 長崎県下海域における重金属等の調査成績. 長崎県衛生研究所報告, **X**, 43—49. [水質]
134. 長崎県衛生研究所 (1973): 長崎県下河川流域の水質調査について (第1報). 長崎県衛生研究所報告, **XI**, 27—30. [水質]
135. 長崎県衛生研究所 (1974): 長崎県下河川流域の水質調査について (第2報). 長崎県衛生研究所報告, **XII**, 33—34. [水質]

(長崎県庁関係)

136. 長崎県企画部 (1968): 大村湾の開発構想について. [開発]
137. 長崎県企画部 (1968): 大村湾地域の社会・経済環境. [社会・経済]
138. 科学技術庁資源調査所 (1968): 大村湾の淡水湖化による水資源開発. [淡水湖化]
139. 長崎県企画部 (1969): 大村湾開発関連資料. [自然条件, 社会経済環境, 開発]
140. 長崎県環境保全局 (1972): 昭和46年度公共用水域水質測定結果. 資料編. [水質 (海域, 河川)]
141. 長崎県環境保全局 (1972): 昭和46年度公共用水域水質測定結果. [水質 (海域, 河川)]
142. 長崎県環境保全局公害規制課 (1973): 大村湾およびその流入河川水域の状況—水質汚濁に係る環境基準の類型指定に関する資料. [河川水質]
143. 長崎県環境保全局 (1973): 昭和47年度公共用水域水質測定結果. 資料編. [水質 (海域, 河川)]
144. 長崎県環境保全局 (1973): 昭和47年度公共用水域水質測定結果. [水質 (海域, 河川)]

(日本水産資源保護協会関係)

145. 日本水産資源保護協会 (1971): 長崎県大村新空港建設に伴う周辺海域の漁業振興基本計画. [海況, 流動, 漁業振興策]
146. 花岡 資・入江春彦・上野福三・飯塚昭二・岡市友利・岩崎英雄 (1972): 内湾赤潮の発生機構. 水産研究叢書 (日本水産資源保護協会), **23**, 35—57. [赤潮]

(その他の機関)

147. 長崎県漁業連合組合 (1954): 宮村漁村の実態調査報告. [漁業]
148. 高島真珠養殖所 (1967): 昭和42年夏期異常斃死に関するシンポジウム記録. 高島真珠養殖資料 **I** (71頁). [アコヤガイ斃死]
149. 長崎県大村空港建設局・日本気象協会福岡本部 (1971): 大村湾海流調査報告書. [流動]
150. 第七管区海上保安本部 (1975): 九州西岸針尾瀬戸及び付近の潮流. [潮流]

(個人関係)

151. 辻田時美 (1949): 大村湾資源開発海況調査結果. 長崎県水産資源調査第1報. [海況]
152. 志村賢男 (1952): 大村湾の漁業 (I) 大村市松原漁業実態調査報告. [漁業]
153. SHUTO, Tsugio (1953): A Study on the Foraminiferal Assemblage of Omura Bay, Nagasaki Prefecture, Kyushu. *Jap. Jour. Geol. Geogr.*, **23**, 127—138 [プランクトン (有孔虫類)]
154. 辻田時美 (1953): 大村湾の海洋生態学的一考察. 日本海洋学会誌, **9** (1), 23—32. [海況, 赤潮]
155. 森 勇 (1961): 大村湾の苦潮について. 日本水産学会誌, **27** (5), 389—394. [海況]
156. 入江春彦 (1966): 1965年大村湾の赤潮. 水産海洋研究会報, **9**, 107—112. [赤潮]
157. MITSUSHIRO, Hiromi (1967): Bottom Sediments in Bays of North Kyushu. *The Memoirs of the Faculty of Science, Kyushu University, Series D, Geology*, **18** (1), 7—34. [底質]
158. 飯塚昭二・入江春彦 (1969): 大村湾における *Gymnodinium* 赤潮発生と海底無酸素化現象との関連. 日本プランクトン学会報, **16** (2), 99—114. [赤潮]
159. 飯塚昭二 (1972): 大村湾における *Gymnodinium* '65年型種赤潮の発生機構. 日本プランクトン学会

- 報, 19 (1), 22—33. [赤潮]
160. 竹村 暘 (1972): 日本沿岸における海中生物騒音の分布. 日本水産学会誌, 38 (3), 201—221. [生物音]
161. 飯塚昭二 (1973): 赤潮の生物相. 水産土木, 9 (1), 19—29. [赤潮]
162. 森 勇・徳永武雄・桑岡亦好・藤木哲夫 (1973): 大村湾の底層貧酸素水と底生有用水族の分布. 日本水産学会誌, 39 (7), 753—758. [貧酸素水, 生物]
163. 小仲貴雄・道津喜衛・田北 徹 (1973): 多良岳山系の河川に産する魚類. 多良岳自然公園候補地学術調査報告書 (国立公園協会, 東京), 73—100. [魚類]
164. 四井敏雄・右田清治 (1974): モズク養殖試験. 日本水産学会誌, 40 (12), 1223—1228. [海藻 (モズク)]